

港湾振興便り



2012. 6
第62号

目次

1 ポートエッセイ 「中国の活力を青島で実感」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

●「日本丸紋別港寄港」～紋別港港湾管理者設立60周年記念事業～
(北海道開発局網走開発建設部)

●高松港朝日地区耐震強化岸壁供用式典を開催
(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)

●大阪湾の生き物を一斉調査 ～第5回大阪湾生き物一斉調査の実施～
(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課)

●韓国海洋環境管理公団による国土交通省 油回収船「清龍丸」視察
(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

●三河港統合50周年記念クルーズの開催 (三河港振興会)

3 お知らせ

1 ポートエッセイ 天災は忘れたころにやってくる
～日本港湾振興団体連合会会長 平松 守彦～

見渡す限り、広大なコンテナ・バースが広がっていた。中国で急成長している青島市の新港を視察したときのことだ。

「ジャンボ・ジェットが離発着できそう」と視察団からため息が出るほどのスケールだった。ガントリークレーンがその岸壁だけで50基以上あり、対岸にもそれに近い数を望むことができた。

青島新港は旧市街地と長大橋とトンネルで結ばれており、新たな青島発展のエンジンとなる。港湾を管理する青島保税港区は国営企業が中心となり、中東など海外からの出資も受け入れている。保税港区の担当者は「やがて青島が物流の中心となる」と自信たっぷりに語った。保税港区をアピールするDVDには温家宝首相ら中国高官が次々と青島新港を視察する様子が映し出され、中国政府の港湾整備にかける思いの強さを表しているようだった。

大型連休明けの5月7日から6日間、この青島をはじめとする山東省と江蘇省、上海を視察する機会があった。

青島新港を見ながら、6年前に上海の洋山深水港を視察したときのことを思い出していた。この港は上海市南部の浦東新区から洋山島まで約30キロの長大橋を架け、水深約18メートル以上の新港をつくったもので、スケールの大きさにこの時も驚かされた。

当時は開港から間もないころで、長大橋を通るコンテナ積載車の数は多いとはいえなかった。「こんなどでかい港をつくって、本当に成功するのか」との疑問も同行した日本の港湾関係者から呈された。しかし、いまは洋山深水港の力で上海の港勢は目覚ましいものがある。

いまや上海の中心となった浦東開発に30代から15年以上携わり、洋山深水港につながる旧南匯区（現在は、浦東新区に統合）の区長を務めた戴海波さんに久しぶりにお会いした。現在は上海市全体の経済プロジェクトを推進する責任者だ。「洋山深水港で上海の拠点性は大きく伸びた」と戴さんは振り返る。

中国も経済面などで多くの課題を抱えている。とはいえ、日本の「決められない政治」と、中国のダイナミズムの落差を痛感し、切ない思いにとらわれた中国訪問だった。

*:

2 トピック

*:

● 「日本丸紋別港寄港」～紋別港港湾管理者設立60周年記念事業～

(北海道開発局網走開発建設部)

紋別港の港湾管理者設立60周年記念事業として、独立行政法人航海訓練所に所属する、帆船「日本丸」が訓練航海の途中で紋別港に寄港します。同船は「D○いなか博」が開催された平成16年8月以来2回目の寄港で、8月4日（土）正午ごろ紋別港南岸壁に接岸し、「セイルドリル」（帆張訓練）や「船内の一般公開」が行われます。また、停泊中は日没から午後10時までイルミネーションの点灯が行なわれます。出航は8月8日（水）午前10時の予定です。紋別市建設部港湾課では「多くの住民の皆さんや観光客の方々の観覧を」と呼びかけています。

なお、紋別港では冬季に運航している流水砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」が、6月～10月までは釣り船に変身しています。オホーツク海を釣り堀に、海釣りにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。釣り道具は全てレンタルが可能。旅客船なので手摺りも高く、子どもから大人までどなたでも安心して楽しんで頂くことができます。

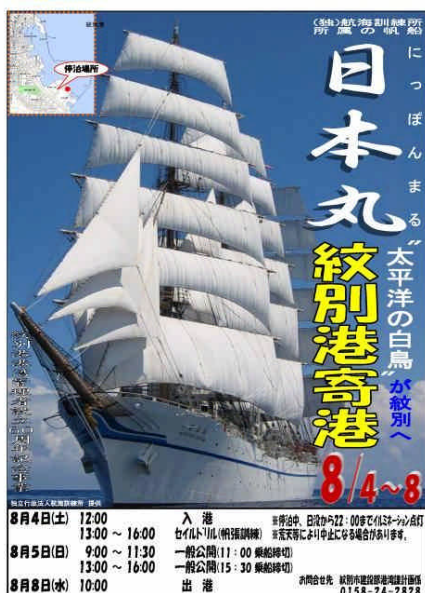
東京からは、1日1便、羽田・オホーツク紋別空港間の直行便がありますのでご利用下さい。天然クーラーを体感できる当地域へのお越しをお待ちしています。

【紋別市HPへのリンク】

<http://www.mombetsu.jp/soshiki/kensetsu/kouwan/event/2012-0322-1122-108.html>

【オホーツクガリンコタワー(株)HPへのリンク】

<http://www.o-tower.co.jp/garinko/>



「日本丸」紋別港寄港ポスター



ガリンコ号Ⅱ釣りクルーズポスター

●高松港朝日地区耐震強化岸壁供用式典を開催

(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)

5月26日(土)、「高松港朝日地区耐震強化岸壁」の供用式典が開催されました。

当式典は、室井国土交通大臣政務官をはじめ、地元国会議員、県内沿岸自治体の首長ら約80名の出席のもと、来場者を対象とした自衛隊による掃海艇の内部公開、緊急物資輸送訓練も同時開催され、会場は熱気に満ちあふれていました。

本耐震強化岸壁は、平常時は船舶の大型化に対応した水深-12mを有する施設として利用され、また、大規模災害発生時には、海上から運搬される緊急物資の輸送拠点として活用されます。

また、当岸壁の完成にともない、バルク貨物を当岸壁にシフトし、コンテナターミナルを2バース化する港湾機能の再配置により、さらなる物流の効率化が見込まれます。



供用式典で挨拶される 室井国土交通大臣政務官



掃海艇の内部公開

●大阪湾の生き物を一斉調査 ～第5回大阪湾生き物一斉調査の実施～

(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課)

大阪湾における海の環境状態を幅広い範囲で把握するとともに、市民の方々に海の環境について関心を持っていただくために、平成20年度から年に一度、大阪湾の生物について市民の方々と一緒に調査を進めていく取り組み「大阪湾生き物一斉調査」を今年も6月2日(土)を中心として実施しました。

5回目となる今回の調査は、日頃から大阪湾の各地で環境問題に取り組んでいる市民団体や環境に関心のある一般の参加者等が、全22地点において実施しており、学識者等の協力を得ることで大阪湾の広範囲な水環境を把握するものです。

なお、昨年の第4回目の調査は、平成23年6月4日に全18地点において実施しており、生物392種を確認しました。また、環境省、水産庁、WWFおよび大阪府、兵庫県で指定されているレッドデータ種として51種が確認されています。



大阪湾東部海域で行われたスナメリ調査では、関空島周辺で十数頭のスナメリが確認され、テレビニュースや各種のメディアでも紹介されました。

今回の調査結果は、今後、学識者の協力により生き物の同定を実施した後、9月22日（土・祝）に大阪市立自然史博物館に於いて「結果発表会」を開催する予定です。



～各地での調査の状況～

今後も、大阪湾の環境に深く関わりのある大阪湾の生物について市民の方々と共同で一斉調査を行うことにより、市民の方々と一緒に大阪湾の環境をモニタリングしていく体制の構築を目指していきたいと考えています。

【過去の調査結果へのリンク】

大阪湾環境データベース URL <http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>

●韓国海洋環境管理公団による国土交通省 油回収船「清龍丸」視察

（中部地方整備局 名古屋港湾事務所）

4月27日（金）に韓国海洋環境管理公団が、中部地方整備局所属の我が国最大の浚渫兼油回収船「清龍丸」を初めて視察し、業務概要などに係る情報収集・意見交換を行いました。

これは、2007年12月に韓国西岸で発生したタンカー油流出事故を契機とする韓国の流出油の防除体制強化の検討の一環として、同公団が国土交通省の油回収船の視察などを行っているものです。今回の視察を通じて、韓国の油防除体制の強化に貢献することができました。



